

平成27年3月 東京地区百貨店売上高概況

平成27年4月21日

I. 概況

1. 売上高総額	1,432億円余
2. 前年同月比	-16.5% (5か月ぶりマイナス)
3. 店頭・非店頭の増減	店頭-16.8%(89.7%) : 非店頭-14.1%(10.3%) ()内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	13社 25店 (平成27年2月対比±0店)
5. 総店舗面積	854,897㎡ (前年同月比:-1.9%)
6. 総従業員数	18,814人 (前年同月比:0.4%)
7. 3か月移動平均値 (店舗数調整後)	8-10月 0.5%、9-11月 0.2%、10-12月 0.2%、 11-1月 0.4%、12-2月 1.7%、1-3月 -5.1%

[参考] 平成26年3月の売上高増減率は25.5% (店舗数調整後)

【3月売上の特徴】

- (1) 3月の入店客数は、前年の健闘や本年休日2日減などの影響を受けながらも、天候に恵まれたことや、訪日観光客数増などのプラス要因により、4%程度の減少にとどまった。
- (2) 商品別では、駆け込み需要の影響で全品目が前年実績を下回ったが、一昨年対比では、衣料品、身のまわり品、雑貨、家庭用品、食料品の主要5品目が全てプラスを記録するなど、消費マインドの底堅さを示した。
- (3) 個別商材では、月全般を通じ気温が高めに推移したことで、前月に引き続いてスプリングコートやニット、カットソーなど春物の動きが好調。また、ホワイトデーは14日が土曜日と重なる条件の中、各店が新規導入したブランドや有名パティシエの商品に人気が集まり、先行展開の成果もあって高額品を中心に好実績を残した。
- (4) 高額付加価値商材は、ラグジュアリーブランド(身のまわり品+8.5%/一昨年比)、高級時計(美術・宝飾・貴金属+14.9%/一昨年比)が引き続き堅調。化粧品についても前年比2桁減を記録したものの、昨年の高伸(+64.4%)を勘案すると極めて堅調に推移した(+35.9%/一昨年比)。また、各社が独自に取り組むPB(プライベートブランド)商品や、各種催事と連動した限定アイテムなどが人気を集めたほか、街全体を盛り上げるため開催した地区内百貨店との共同催事も集客に貢献した。
- (5) 4月の商況は、昨年の消費税増税直後の反動(-10.8%)もあって、15日段階ではプラス20%強で推移しており、GWを中心に客数、売上共に更なる上積みが期待される。

【要因】

- (1) 営業日数増減 31.0日 (前年同月比±0.0日)
- (2) 入店客数増減 (回答店舗数で見る傾向値/前年同月比/有効回答数18店舗)
①増加した: 4店、②変化なし: 5店、③減少した: 9店
- (3) 3月歳時記(ひな祭り、ホワイトデー、卒業・入学、新生活)の売上 (同上/有効回答数9店舗)
①増加した: 0店、②変化なし: 4店、③減少した: 5店

東京地区百貨店 売上高速報 2015年03月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率 (%)
総 額	143,295,646	100.0	-16.5
紳士服・洋品	11,590,073	8.1	-11.5
婦人服・洋品	28,812,904	20.1	-15.2
子供服・洋品	5,875,451	4.1	-6.9
その他衣料品	2,515,279	1.8	-37.0
衣 料 品	48,793,707	34.1	-14.9
身のまわり品	20,615,548	14.4	-17.7
化粧品	10,135,234	7.1	-17.3
美術・宝飾・貴金属	9,270,961	6.5	-43.5
その他雑貨	6,699,551	4.7	-16.7
雑 貨	26,105,746	18.2	-28.9
家 具	2,369,765	1.7	-34.3
家 電	864,780	0.6	-25.4
その他家庭用品	4,566,699	3.2	-18.5
家 庭 用 品	7,801,244	5.4	-24.8
生 鮮 食 品	4,544,457	3.2	-5.6
菓 子	10,857,970	7.6	-2.4
惣 菜	6,554,492	4.6	-2.7
その他食料品	8,502,986	5.9	-5.4
食 料 品	30,459,905	21.3	-3.8
食 堂 喫 茶	3,266,739	2.3	-5.5
サ ー ビ ス	2,801,326	2.0	-4.6
そ の 他	3,451,431	2.4	-16.7

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。
本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率 (%)

商 品 券	3,027,042 千円	-10.6
従 業 員 数	18,814 人	0.4
店 舗 面 積	854,897 m ²	-1.9

営 業 日 数	31.0 日	前年	31.0 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は、昨年6月以来9か月ぶりに全品目がマイナスとなった。また、駆け込み需要の反動が大きかった4月以来11か月ぶりにその他の品目もマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比	寄与度	トレンド
総額	-16.5	—	5か月ぶりマイナス
紳士服・洋品	-11.5	-0.9	9か月ぶりマイナス
婦人服・洋品	-15.2	-3.0	2か月ぶりマイナス
子供服・洋品	-6.9	-0.3	2か月ぶりマイナス
その他衣料品	-37.0	-0.9	7か月連続マイナス
衣料品	-14.9	-5.0	2か月ぶりマイナス
身のまわり品	-17.7	-2.6	9か月ぶりマイナス
化粧品	-17.3	-1.2	9か月ぶりマイナス*
美術・宝飾・貴金属	-43.5	-4.2	2か月連続マイナス*
その他雑貨	-16.7	-0.8	2か月ぶりマイナス*
雑貨	-28.9	-6.2	6か月ぶりマイナス
家具	-34.3	-0.7	12か月連続マイナス
家電	-25.4	-0.2	4か月ぶりマイナス
その他家庭用品	-18.5	-0.6	2か月ぶりマイナス
家庭用品	-24.8	-1.5	2か月ぶりマイナス
生鮮食品	-5.6	-0.2	12か月連続マイナス*
菓子	-2.4	-0.2	3か月ぶりマイナス*
惣菜	-2.7	-0.1	4か月ぶりマイナス*
その他食料品	-5.4	-0.3	3か月ぶりマイナス*
食料品	-3.8	-0.7	3か月ぶりマイナス
食堂喫茶	-5.5	-0.1	2か月ぶりマイナス
サービス	-4.6	-0.1	5か月ぶりマイナス
その他	-16.7	-0.4	3か月ぶりマイナス
商品券	-10.6	-0.2	2か月ぶりマイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した。

お問い合わせは、日本百貨店協会 森・関まで
 TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>